

2021年11月1日

学校法人 西鉄学園  
専門学校西鉄国際ビジネスカレッジ  
校長 椎葉 小夜子

## 「自己評価及び学校関係者評価結果（令和2年度版）」 報告

学校法人西鉄学園 専門学校西鉄国際ビジネスカレッジでは、令和2年度の自己点検・自己評価を実施し、本校規程に基づき学校関係者評価委員会を開催いたしましたので、ここに学校教育法施行規則第189条に則して「自己評価及び学校関係者評価結果（令和2年度版）」を公表いたします。

学校関係者評価委員会からのご意見を真摯に受け止め、教育力の更なる向上、より良い学校運営を目指し、教職員一同努力して参ります。

今後とも、一層のご支援、ご協力を賜りますようお願い申し上げます。

### ■学校関係者評価委員

	氏名	所属・役職
企業・団体	江里口 愛	THE BASICS FUKUOKA 支配人
	青木 秀樹	株式会社西鉄ホテルズ シティホテル事業本部 宿泊部 部長
	水城 弘幸	西鉄旅行株式会社 総務部 課長
	松浦 幸平	株式会社 JAL スカイ九州 取締役総務部長
	佐竹 恵一	株式会社 JAL グランドサービス九州 総務部 総務グループ長
	江口 哲郎	JR 九州サービスサポート株式会社 常務取締役 鉄道事業本部長
	三笥 和弘	公益財団法人福岡観光コンベンションビューロー 事務局長
	三浦 芳徳	公益財団法人産業雇用安定センター 福岡事務所 参与
	井上 武之	県立高等学校長 経験者
松藤 大助	日本郵便株式会社 竹下郵便局 局長（卒業生）	
事務局	椎葉 小夜子	理事 校長
	伊藤 潤	副校長 鉄道科学科長
	後田 友房	総務部長
	牟田口 真理子	教務部長
	久保田 博子	教務部副部長 エアライン科、観光科学科長
	長野 美穂	ホテル・ブライダル科学科長

自己評価及び学校関係者評価結果（令和2年度版）

2021年11月1日公開

評価項目	自己評価	学校関係者評価
<p>(1) 教育理念・目的・ 育成人材像</p> <hr/> <p>○社会のニーズを踏まえた将来構想を抱いているか。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 中期的な視点での学校の将来構想</li> <li>2. 将来構想の教職員への周知</li> <li>3. 将来構想の学生・保護者への周知</li> </ol>	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 学校の将来構想は3年毎に策定される中期計画に沿ってその都度見直しを図っている。</li> <li>● 社会のニーズを踏まえて 英語や韓国語などの語学とITに力を入れた新学科「国際ビジネス科」を2022年開設する。</li> <li>● 将来構想は 定期的に全体会議を開催し 教職員に周知している。</li> <li>● 将来構想についてはホームページ・IBC通信などで学生・保護者に周知している。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 今後ますます業界ではITリテラシーや語学力（英語・韓国語・中国語）を身に付けた学生の活躍の場が広がっている。「国際ビジネス科」の今後の発展に期待する。</li> <li>● 様々なダイバーシティに対応できる人材の育成を期待する。</li> <li>● 今後コロナ禍を経て新しいビジネススタイルの提案を出来る学生の育成を期待する。</li> </ul>
<p>(2) 学校運営</p> <hr/> <p>○理念等を達成するための事業計画を定めているか</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 中期計画を定めているか</li> <li>2. 単年度の事業計画を定めているか。</li> <li>3. 事業計画の執行体制、業務分担等を明確にしているか。</li> <li>4. 事業計画の執行・進捗管理状況及び見直しの時期・内容を明確にしているか。</li> </ol>	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 中期経営計画に沿って、各年度の事業計画を明確に策定している。</li> <li>● 単年度の事業計画を定めている。</li> <li>● 事業計画の執行体制・業務分担は毎年文書で作成し明確にしている。</li> <li>● 事業計画の執行進捗管理状況及び見直しの時期・内容は明確にしている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 中期経営計画の「海外の企業・職業大学との連携の強化」という目標において、コロナ禍の影響で連携が図れない状況だったが、感染状況が収まった際には、すぐに行動に移せるよう準備を整え実行に移してほしい。</li> </ul>
<p>(3) 教員・教員組織</p> <hr/> <p>○教員の資質向上への取り組みを行っているか</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 教員の専門性、教授力の把握。</li> <li>2. 教員の資質向上のために研修計画の策定と適切な運用</li> <li>3. 関連業界と連携した教員の研修と研究</li> <li>4. 教員の研究活動・自己啓発の支援など</li> </ol>	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 教員の専門性、教授力は学期末に授業アンケートを取るなどして把握に努めている。</li> <li>● 教員の資質向上のため 研修を行っている。本年度は昨今のインターネットを使った学びに対応するためICT教育研修会を実施した。</li> <li>● 関連業界と連携した教員の研修と研究は行っている。</li> <li>● 教員の研究活動・自己啓発の支援などは資格取得の受験料補助制度や通信教育推奨などで行っている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 授業アンケートの結果については適切に実施・講師へのフィードバックが行われている。</li> <li>● オンラインを使った授業運営などについての研修も行いスムーズに移行できている。</li> <li>● 教員の自己啓発のための時間と機会確保に努めて欲しい。</li> </ul>
<p>(4) 就職率</p> <hr/> <p>○就職率の向上</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 目標設定はあるか</li> <li>2. 学生の就職活動の把握</li> <li>3. 専門分野と関連する業界等への就職状況の把握。</li> <li>4. 関連する企業と連携したセミナー等の実施。</li> <li>5. 就職率等のデータに関する適切な管理。</li> </ol>	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 就職率100%を目標数値として取り組んでいる。</li> <li>● 1年次より就職に関する授業を配置し、キャリア形成を念頭に置き、目標達成に向けた教育を行っている。就職活動は担任と就職室が連携して学生を支援している。</li> <li>● コロナ禍で採用中止が相次ぐ中、求人確保に努め、個人面談を強化するなど学生支援を行い、目標数値を達成することができた。</li> <li>● オンラインによる企業説明会や面接試験対策の教育プログラムを導入して指導を行った結果、学生は柔軟に対応できた。</li> <li>● 業界への就職率は目標値を設定し、把握している。</li> <li>● 関連する企業と連携した授業や就職セミナー、企業説明会など実施している。</li> <li>● 就職率等のデータについては、学内システムで適切に管理している。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>● コロナ禍において就職斡旋は困難であったと推測するが、卒業時点で98.8%卒業後も個人的にフォローを行い100%に達するなど高い就職率を達成したことは評価に値する。</li> <li>● コロナ禍により、企業説明会や面接試験がオンラインで実施されることが一般的になってきた。それにすばやく対応し、学生貸出用のパソコンやヘッドセットの設置、オンライン面談用の小会議室予約制度を設けて落ち着いて面接を受ける環境を整備するなど、適切に対応している。</li> <li>● 面接試験において自身のことを強くアピールできるだけの経験と表現力を育成して欲しい。</li> </ul>
<p>(5) 学生生活</p> <hr/> <p>○中途退学低減への取組み</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 中途退学の要因や傾向の把握</li> <li>2. 指導経過記録の保存</li> <li>3. 中途退学低減に向けた学内の連携体制の有無</li> <li>4. 特別指導体制の有無</li> </ol>	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 中途退学者の低減を図るため、年度、学年ごとに目標数値を明確化し、担任による個別面談を学生全員に実施している。</li> <li>● コロナ禍で新年度スタート時点から対面授業が実施できず課題やオンライン授業となったが、感染防止対策を施し対面授業への移行を早め、ディプロマポリシーに則り専門知識や技術を習得させることにより、学習不安や就職の不安を払拭させ、退学者の低減を図ることができた。</li> <li>● 学校行事に卒業生との懇談会を設定し、業界の現状や目指す業界人像を描けるよう努めた結果、学生は目標を失うことなく学習に取り組むことができた。</li> <li>● ホームルームを活用し、将来に対する不安の払拭とクラス内の融和をより一層意識して退学者の低減に努めた。</li> <li>● 入学者数、退学者数、休学者数及びその理由・退学に至る経緯といった基本情報を適切に記録し、保存している。</li> <li>● 退学の兆候を見逃さぬよう、学生の観察を怠らず、面談を密に行い、退学を申し出た学生については、複数の教職員で対応している。</li> <li>● カウンセリングの資格を有するスクールカウンセラーを配置している。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 中途退学者は例年に比べ減少している。コロナ禍において学生も日常生活に不安を抱きがちな時期であったと思われるが、退学者を出さない取組みに一定の成果が見られる。</li> <li>● 面談等を通じて個人のメンタルヘル스에配慮し、引続き退学者の低減に努めて欲しい。</li> </ul>

<p>(6) 教育環境</p> <p>-----</p> <p>○学内学習、インターンシップ、海外研修等の体制の整備</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 学外実習の実施要項・マニュアルの整備</li> <li>2. 関連業界等との連携による企業研修等の実施</li> <li>3. 学外実習等の教育効果の確認</li> <li>4. 学校行事の運営等への学生の積極的な参加</li> <li>5. 卒業生・保護者・関連業界等への行事の案内</li> </ol>	<ul style="list-style-type: none"> <li>● コロナの影響により対面授業ができない状況となったが、即座に学生の通信環境の調査を実施するとともにオンライン授業のシステムを構築し、教職員を対象に研修会を実施して、スムーズにオンライン授業に移行することができた。</li> <li>● 学外実習の実施要項・マニュアルについては、適切に整備している。</li> <li>● 関連業界等と連携し屋間部については全員参加の企業実習制度を定めている。コロナ禍により一部の学科が実現に至らなかったものの、過半数が企業での現場実習を体験することができた。実習が実現しなかった学科には代替授業を実施した。</li> <li>● 学外実習については学生からの報告書を義務付け、教育効果の定着に努めている。</li> <li>● 学校行事の運営等については、学生による実行委員会を形成し、主体的な運営を担わせている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>● コロナ禍に即応し、オンライン授業のシステムを構築して学びを止めなかったこと、新たな学びの方法を構築したことは評価する。</li> <li>● コロナ禍による影響で、一部の学科で企業実習が実現できなかったことは残念だった。代替授業により学生支援を行ったことは評価する。</li> <li>● 学生が自信を持って社会に出ることが出来るよう更なる支援を期待する。</li> <li>● 航空予約システムアマデウスの教育等、業界のニーズに即した教育環境を整備している。</li> <li>● 今後インターネットを使った学びの手法が一般化してくることが考えられる。インターネット環境やそれを使う教員の研修の機会をさらに増やす必要がある。</li> </ul>
<p>(7) 学生の募集活動</p> <p>-----</p> <p>○学生募集は適切か</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 願書の受け付け時期は適切か</li> <li>2. 入学相談に適切に対応しているか</li> <li>3. 特徴ある教育活動、学習成果についてわかりやすく紹介しているか。</li> <li>4. 情報管理等のチェック体制を整備しているか。</li> <li>5. 志願者の状況に応じて多様な試験・選考方法を取り入れているか。</li> </ol>	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 願書の受付時期は県の指針に則って行っている。</li> <li>● 入学相談に適切に対応している。</li> <li>● 入学案内書やオープンキャンパスにおいて学習成果についてはわかりやすく紹介している。</li> <li>● 募集活動において知りえた個人情報に規定に則りチェック体制を整え管理している。</li> <li>● 志願者の状況に応じて多様な試験・選考方法を取り入れている。</li> <li>● コロナ禍でオープンキャンパスやガイダンスの中止を余儀なくされたが、Webの活用を加速させ、学校情報の発信を積極的に行った。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 入学選考において、学科毎の入学者数の傾向を把握しており、予測もできている。</li> <li>● Webを活用したガイダンスやオープンキャンパスは、地域に限定されることなく広範囲に広報活動ができるので、今後も継続して実施し、学校の紹介に努めて欲しい。</li> </ul>
<p>(8) 財務基礎</p> <p>-----</p> <p>○中長期的な財務基盤は安定している。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 応募者数・入学者数及び定員充足率の推移を把握しているか。</li> <li>2. 収入と支出はバランスが取れているか。</li> <li>3. 設備投資が過大になっていないか。</li> </ol>	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 応募者数・入学者数及び定員充足率の推移を把握している。</li> <li>● 収入と支出はバランスを取っている。</li> <li>● 設備投資は過大になってはいない。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 中期的な財務基盤は安定している。</li> </ul>
<p>(9) 個人情報保護</p> <p>-----</p> <p>○個人情報保護に関する対策の実施</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 個人情報保護に関する取扱規定を定めているか。</li> <li>2. 個人データ記録を適切に運用しているか。</li> <li>3. 学校が開設したサイトの運用に当たって情報漏洩防止策を講じているか。</li> <li>4. 学生教職員に個人情報管理に関する啓発及び教育を実施しているか。</li> </ol>	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 個人情報保護に関する取扱規程を定めている。</li> <li>● 個人データ記録を適切に運用している。</li> <li>● 学校が開設したサイトの運用は、情報漏洩防止策を講じている。</li> <li>● 学生教職員に個人情報管理に関する啓発及び教育を実施している。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 法令遵守、コンプライアンスの啓発において人種・多様性も関連させた指導を期待する。</li> </ul>
<p>(10) 社会貢献・地域貢献</p> <p>-----</p> <p>○国際交流に取り組んでいるか。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 海外の教育機関との国際交流の推進に関する方針を定めているか。</li> <li>2. 海外の教育機関と教職員の人事交流を行っているか。</li> <li>3. 海外の教育機関と留学生の受け入れ、派遣、研修の実施など交流を行っているか。</li> <li>4. 留学生の受け入れのため学修成果、教育目標を明確化し、体系的な教育課程の編成に取り組んでいるか。</li> <li>5. 留学生の受け入れを促進するために学校が行う教育課程、教育内容・方法等について国内外に積極的に情報発信を行っているか。</li> </ol>	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 海外の大学や語学学校と提携し、学生の留学受け入れに関する取り決めをしている。</li> <li>● 海外実習・留学プログラムは、コロナ禍であることを考慮し、安全性を最優先して全面的に中止した。</li> <li>● 海外の教育機関と教職員の人事交流は行っていない。</li> <li>● 海外の教育機関と留学生の受け入れ、派遣、研修の実施など交流を行っている。</li> <li>● 留学生受け入れのため学修成果、教育目標を明確化し、日本語教育と職業教育を併せて行う課程の編成に取り組んでいる。</li> <li>● 留学生受け入れを促進するために、学校が行う教育課程・教育内容・方法について情報発信は行っているが、国外に十分に行っているとはいえない。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>● コロナの影響もあり、予定していた海外との交流や留学生の派遣が出来なかったと推測する。海外留学は学生にとって貴重な機会となるので、コロナの状況が改善した際には交流を活発化することを望む。</li> <li>● 今後グローバル化が進む中、教職員を含めた国際交流の発展に期待する。</li> </ul>